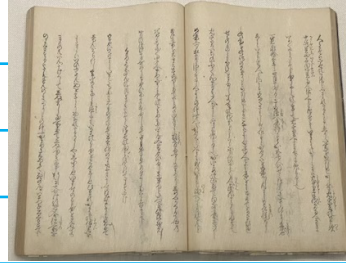


## 5. 政宗公の最期の日々

政宗公の最期の日々を側で看取った小姓

木村宇右衛門可親の覚書を元にたどる



木村宇右衛門覚書  
仙台市博物館蔵

心配する家族や將軍家への感謝を表しながら、最期まで『戦国武将』としての生き様を全うしようとした政宗公の姿がありありと描かれている

寛永13年(1636年)

1月19日 十五浜(雄勝)で鹿狩り 白鹿等と出合い仕留める

翌20日 「辞世にもなるべし」と和歌「くもりなき」を披露

4月20日 参勤交代のため発足、増田でホトトギスの初音

白石に宿泊、片倉小十郎重綱への言葉

同22日 矢吹で鶉鷹野、鶉の消失、にわか豪雨

同25日 日光社参、階段でのつまづきと怪我

愛馬 志賀栗毛が突然倒れる

日光東照宮  
奥の院石階段

同28日 江戸到着

5月1日 江戸城登城、將軍徳川家光へお目見え

同2日 將軍お抱医師の派遣、將軍上使や諸大名の朝夕の見舞

同6日 脈に異変 翌7日 將軍の命で江戸中の医者が診察

將軍家への忠節と御用に立てない悔しさを吐露



[No.05]

2021年5月19日

支倉ないと  
ONLINE

5月18日 自ら献立を決め忠宗・秀宗等へお振舞い、引退宣言

腹部膨満3尺8寸5分(116.7cm)、手足痩せ細る

それでも袴を履き、横になることはない

泣く小姓たちを諫め、寄り添い、夢を語り笑い合う

同20日夜 明日將軍御成の内意、密かに準備

同21日 將軍御成、涙の対面、家光は政宗公の死期を悟る

同22日 鍼治療、忠宗との初めてのスキンシップ

殉死希望者への対応、夜危篤もすぐに息を吹き返す

志賀栗毛急死、夜中屋根の上を多数の烏が飛び回る

同23日 愛姫の見舞いを断る、身辺整理、千菊姫へ手紙返信

愛姫への形見わけと遺言、夜身支度を整え就寝

時々目を覚まし「百夜を明かすよりも今宵は長し」

同24日 夜明け直前に目覚め、「知死期の時来たり」

小便から部屋に戻る際に足が動かなくなる

「如何様にして成とも御床の上までつれ奉り候へ」

「ならば引けや、えいさらえいさらと御狂言」

西を向いて正座し合掌して最期の時を迎える

最期は「御目をはつきと開かせ、何と一声高々と

仰せられそのまま消ゆる如くに息絶えたり」



伊達政宗終焉の地  
日比谷公園